



市民Pに関する 覚え書き

4月8日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

4月8日のSFP「市民Pに関する覚え書き」

後に「市民P」または「玄人P」と呼ばれることになるボカロP、岩淵ハヤテはささやかだが重大な発見をしていた。その話をしよう。

岩淵ハヤテが「シチズン梅田」の名前でニコ動ことニコニコ動画に発表した最初の曲のタイトルは『くろうとはだし』。ボーカロイドには巡音ルカを使い、作詞作曲ともにオリジナルだった。ボカロ界の黎明期で、まだボーカロイドを使いこなせるプロデューサーがそれほど多くなかった中、その完成度は群を抜いており、まさに玄人はだしのクオリティの高さだと一部の注目を集めた。それも当たり前で、岩淵ハヤテは頼れるスタジオミュージシャンとして、すでに7年間の経歴を持っていた。玄人はだしどころか本物のプロだったのだ。

職業的なプロというだけではない。岩淵ハヤテは中学時代からバンド活動が続けてきて、ボカロデビュー以前に書き貯めた曲がそろそろ300曲に届こうとしていた。本来、聴衆の前でライブ演奏するスタイルのハヤテがボーカロイドを利用するようになった理由は単純なものだった。スタジオ録音の仕事が忙しくなり、バンド活動ができないストレスを晴らすためだったというのが本人の言で、それはたぶんその通りだったろう。溜まりに溜まった自作曲の中から「これは」という曲をピックアップし、ニコ動に発表しようと思いついたのがボーカロイド・プロデューサー「シチズン梅田」の誕生のきっかけだった。

けれども『くろうとはだし』は半年経っても2000人程度にしか視聴されず、さほど人気を獲得したとはいえない。後の人気からすると意外だろうけれど、黎明期のボカロの視聴者の多くは既製の曲をボーカロイドたちにどう歌わせるかという点に興味を持っており、オリジナル曲の需要は低かったのだ。第2作目『赤い粒胡椒』、第3作『畦は柿色/Eighty』も、「さすが玄人P」という評価を受けたものの、さほど注目を浴びたわけではなかった。ただ、この時点で何人かは、シチズン梅田が昭和の有名な女性アイドル歌手をパロディにしたプロジェクトだということに気づいていた。そしてコメント欄に「あの音痴っぷりも再現できればもっといいのに」と書いた。

これが大きな転機をもたらした。

第4作『チャールズブロンソン』の発表までに半年が費やされた。この時点ではまだ試行錯誤が繰り返されていたが、いささか調子っぱずれのアイドル「シチズン梅田」はささやかな話題となり、1か月以内に10000人以上が視聴するようになった。第5作『那須のタブラ』では、「歌が下手なアイドル」としての完成度が一層上がり「なにこれ」「まじめにチューン汁」「SEIKOちゃん！」「ダメポ」などのコメントを集め、3か月かけて再生数が10万回を超えて殿堂入り。以後、第6作『エロいバラドル』、第7作『ほりたつお』は発表と同時に大絶賛で迎えられ、第8作『破壊ツイート柿ピー』では当時としては最短記録で殿堂入りするまでになっていた。

* * *

交通事故で岩淵ハヤテが亡くなったのは第10作『ゴス色のマイメイド』を発表して、そろそろ次回作が待たれているところだった。ちょうどそのとき、人気絶頂のアイドルグループの新曲が『ゴス色〜』にそっくり（というかあからさまなパクリ）だということが話題になっている最中だったので、その死には裏があるのではないかと、事故ではなく事件なのではないかと囁かれたが、結局それは全くの不運な事故に過ぎなかった。

「市民P」ことシチズン梅田の活躍はこれで終わった。シチズン梅田の死を悼む声が盛り上がり、さまざまな話題が重なったおかげで『ゴス色〜』はミリオンで視聴され、カラオケでは一般曲を含めたランキングでトップ10に食い込んだ。第9作『なぎらのバルスお兄』と合わせて2曲がトップ10に入ったのは空前の出来事だった。テレビやラジオなどのマスメディアでも一時期パワープレイされたが、忘れられるのも早かった。

けれどもプロジェクトは続けられねばならない。わたしはそう思う。なぜなら岩淵ハヤテの曲はまだまだあるし、パロディの対象たる元アイドルの曲もまだまだあるからだ。それだけではない。わたしは岩淵ハヤテからヒット曲づくりの極意を聞いてしまったのだ。

ささやかだが重大な発見。ヒットメーカーの極意。「あの音痴っぷりも再現できればいいのに」というコメントをきっかけに、岩淵ハヤテは元アイドルの歌声を研究し尽くした。そして、その調子っばずれは、驚いたことに実は音痴ではなかったことを発見した。それはある法則に乗っ取った歌声だったのだ。そして岩淵ハヤテはその「調子っばずれ」を再現するためのプロトコルをつくりあげた。

わたしは「CITIZEN」名義で、プロジェクトを再開した。第11作にあたる『エンジンバラの調度』、次の『隠密の前園』は「できのわるい梅田のフォロワー」と切り捨てられたが、第13作「地獄のKISS」、第14作『シイナの林檎／SWEET POTATOES』を発表するに及んで、「これは本物だ」「シチズン梅田は生きている」と話題になった。「市民P」の呼び名が定着したのもこの頃のことだ。

そう。岩淵ハヤテが、わたしのハヤテが発見したことは正しかったのだ。あの元アイドル歌手は、正確に72平均律で歌っていたのであり、決して音痴だったわけではないのだ。1オクターヴが72音階で構成される72平均律の世界は、一般的な12音階に慣れたわたしたちの耳には調子っばずれに聞こえる。でも、それは単に72平均律の世界を知らないだけのこと、その世界になじめば味わったこともないような複雑な音世界を体験できるのだ。

生前、ハヤテは言ってくれた。

「だからあの頃、お前をボーカルに選んだんだよ」

そう。わたしたちは学生時代に一緒にバンドをやっていた。ボーカルのわたしは紅一点。女性ボーカルをフィーチャーしたハードロックのバンドだった。

「嘘ばかり」

「嘘じゃない。おれにはわかった。お前の歌は特別だった。あの頃は知らなかったけど、お前は72平均律の世界の住人だったんだ」

「バンドのみんなに音痴だと言われて、わたしをおろしたくせに」

「おろしてないさ。こうやって一緒に暮らして次に備えてるじゃないか」

今のわたしは歌うことができない。ハヤテが死んで声が出せなくなったのだ。ハヤテはもういない。ハヤテとわたしはもう何にも備えていない。そうわかって、声が失われてしまった。泣いて泣いて泣き尽くした果てに全く声が出なくなってしまった。けれどもわたしは歌を発表することができる。「CITIZEN」の名前で岩淵ハヤテの歌を届けることができる。プロトコルなんて知らなくても、どう歌えばいいかはわかっているから。そしてたくさんのファンがいる。市民Pの、CITIZENの新曲を待っている人がいる。それでいい。それでいいんだと思う。

(「平均律」 ordered by タリン-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

市民Pに関する覚え書き

<http://p.booklog.jp/book/48019>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/48019>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/48019>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.